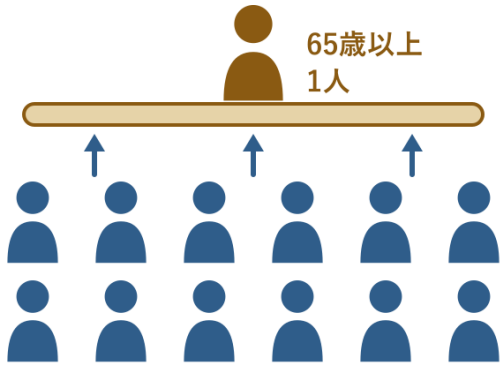
高齢者1人を支える人数の変化

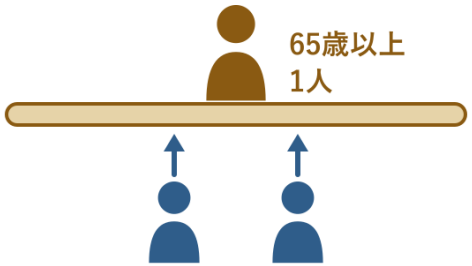
65歳以上の人1人を、15〜64歳の人の何人で支える社会に変わってきたか

1950年（昭和25年） 実績



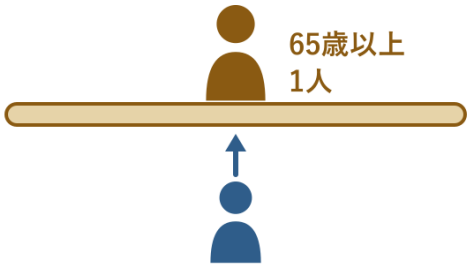
15〜64歳 12.1人

2025年（令和7年） 実績



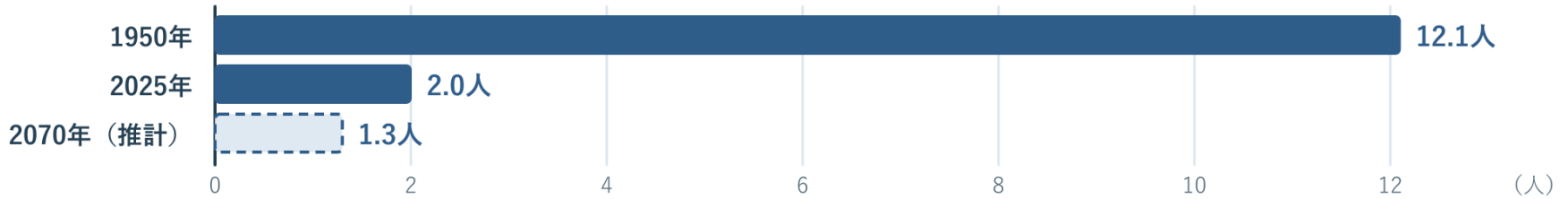
15〜64歳 2.0人

2070年（令和52年） 推計



15〜64歳 1.3人

65歳以上1人あたりの15〜64歳の人数（グラフ）



支える側1人あたりの負担が重くなる。医療や年金など、社会保障の費用をどう支え合うかが課題になる。

統計：内閣府『令和8年版 高齢社会白書』第1章第1節（2025年は総務省「人口推計」10月1日現在）。2070年は将来の推計。

※ 15〜64歳を支える世代、65歳以上を支えられる世代と見た比べ方の1つ。人型は人数の比べを示す記号（12.1人は12体、1.3人は1体で表した）。